

開催日：平成 29 年 11 月 20 日（月）

場 所：新軽井沢会館

### ■基本方針の検討

- 前提事項として、上位・関連計画等での該当エリアの位置づけ、及び立地（広域での位置づけ）について整理のうえ、意見交換が行われました。

#### 【上位・関連計画等におけるキーワード】

- ・軽井沢グランドデザイン：「文化拠点としての新軽井沢」
- ・軽井沢町都市計画マスタープラン：「軽井沢町の玄関口にふさわしい、賑わいのあるモダンなまち」

### ■個別課題の検討

- 「駅と周辺施設とのつながり、連続性」について、考えられる現況課題等を整理のうえ、意見交換が行われました。

#### 【現況課題の整理】

##### （１）駅周辺施設との回遊性

- ・駅前交番により歩行者動線が遮蔽されている。
- ・矢ヶ崎公園へ最短距離でアクセスできるルートがない。
- ・国道 18 号線が南北の歩行者動線を限定している。

##### （２）歩行者空間の不足

- ・ペDESTリアンデッキから降りた先の広場空間が小さく、イベント等が行える多目的のスペースや、滞留空間としての機能が不足している。

##### （３）駅前の賑わいづくり

- ・駅周辺にある店舗の種類が偏っており、沿道の賑わいを生み出す業種が不足している。
- ・横町が連続した店舗の立地となっていない。

#### 【改善方針案】

##### ▶ 駅周辺の回遊性向上と賑わいづくり

- ・都市軸、賑わい軸、まちかど広場など、街路の特性ごとにみちづくりの方針を定める。

##### ▶ 南北歩行者動線の強化

- ・国道 18 号線の横断歩道の配置を検討する。

##### ▶ 駅前広場における歩行者空間の再配置

- ・交番を移設する。
- ・駅前に歩行者広場を拡充する。

## 主な意見等

### ■基本方針

- 都市計画マスタープランでは「軽井沢町の玄関口にふさわしい、賑わいのあるモダンなまち」とあるが、軽井沢駅利用者の大多数を占める観光客が求めているものは“賑わい”ではないと思う。“高原保養地”をベースに考えてはどうか。
- 新軽井沢は、旧軽井沢を含め空洞化している。生活者、商業者の生活の場でもある事を念頭において考えることも必要ではないか。

### ■個別課題

- 企業による開発を見越した周辺の仕掛け、駅周りの車の回し方、歩行者としての空間を重要視した駅前広場の再編成について具体的な議論が必要ではないか。
- 旧軽井沢、中軽井沢、南地域へ繋げるルートを充実させれば、軽井沢駅から矢ヶ崎公園のルートも活かされるのではないか。
- 駅利用者の多くを占める観光客をメインターゲットと考えれば、あえて車での通行を不便にすることにより、電車利用者（パークアンドライド等）が増え、結果的に商業者にとってもプラスになるのではないか。
- 軽井沢駅前交番の移設について検討する協議会を作ってはどうか。
- 軽井沢の価値を高めブランド化するため国際的に通用するホテルの誘致を進めてはどうか。
- 防災の観点からは駅前の大木はない方がよいのではないか。
- 軽井沢駅前にホテルがいるような自然環境を作るのもよいのではないか。
- 横町について、歩いて買い物や飲み食いができる通りに整備してはどうか。
  - 〈具体的な案〉・道路に造作等を施し、ゆったりと曲がりくねる道にする。
    - ・歩行者天国にする。
    - ・路面を石畳等の素材で舗装する。
    - ・道路に臨時店等を出店し、賑わいを出す。
- 矢ヶ崎公園を、「緑と芸術の公園」として仕立て直し、雲場池のような観光スポットになるよう整備してはどうか。
  - 〈具体的な案〉・在来植物を中心とした、町植物園分園機能の一部を担えるようなエリアを設置する。
    - ・大賀ホール付近に、若い人たちを中心に、音楽や音楽以外の文化活動をオープンに楽しむスペースを作る。
    - ・メタセコイアを除去し、広葉樹を植える。
    - ・池に名前を付ける。また、観光、水質浄化の観点から、噴水を作るなどする。
    - ・矢ヶ崎公園管理棟は、地域のコミュニティの場、災害時の避難場所として残す。